

平成19年1月28日発行
第59号

発行
印南宏後援会
発行責任者 印南宏



あけまして
おめでとーございませう

平和台の皆様、明けましておめでとーございませう。昨年を振り返ると、「いじめ自殺、親子殺し、未履修」と子どもと若者関連の問題が後を絶たない年でした。また、地方分権が叫ばれる中で各自治体の首長（知事や市長）が次々と逮捕されるなど、地方自治体の未来に不安な影を落とした一年でした。

迎えた二〇〇七年、亥年は、古くから暴れる年、大災害が多く発生している年でもあります。大正十二年、十万人以上の死者・行方不明者を出した関東大震災、昭和五十八年の日本海中部地震、平成七年の阪神淡路大震災など、全て亥年の大災害です。そして今年は何年と言っても十二年に一度、四月の統一地方選と夏の参院選が重なる年です。格差拡大、いじめ、自殺といった殺伐とした、とかく「自分さえよければ」という風潮が

蔓延する現代の日本。干支である「猪突猛進」は避けて、少し立ち止まって、自分らしさや日本の良さである「和」を尊ぶ気持ちを考えてみたいと思っております。「人間は強くなければ生きていけない、しかし、やさしさがなければ生きていく価値がない」と、いつか聞いた言葉を思い出しました。本年も引き続きのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

昨年の国政

国の政治の分野ではご存知の通り、私と同年代、戦後生まれで初の首相として安倍内閣が誕生し、「美しい国づくり」を合言葉に政界のトップに立ちました。その後、教育基本法の改正や、防衛庁を防衛省に格上げするなど動きはあるものの「美しい国」とはいつたい何なのか、美しい国という大変崇高な響きとともに曖昧な言葉となっていることが気にかかります。閣僚の人事面でも公務員宿舍の不適切な使用問題や「政治と金」をめぐる数々のスキャンダルで安倍内閣が大きく揺れ動いているのが現実となっています。



♪ 是非、ご覧下さい!! ♪

印南が代表を務める「あびこ21」ホームページ
<http://abiko21.exblog.jp/>

我孫子市 公式ホームページ
<http://city.abiko.chiba.jp>

我孫子市政

昨年、私たちの街、我孫子市では

- ① 三月、全国初の「提案型公共サービス民営化制度」がスタート。
- ② 八月、我孫子駅南口に千葉県と我孫子市が共同で建築した、「けやきプラザ」がオープン。
- ③ 九月には福島市長が勇退を发表。
- ④ 我孫子市の発展に欠かすことのできない成田線や常磐線の利便性向上のため九万人の署名活動を実施、新たな要望活動を展開。
- ⑤ 十二月には市長の政治理念として鋭意取り組んできた自治基本条例が否決。

我孫子市政も紆余曲折があった一年でした。

二〇〇七年は選挙一色

二〇〇七年、我孫子市は一月二十一日に市長選挙と市議補選が行われました。そして四月に県議選、七月に参院選、そして十一月は市議選、と選挙一色の年になりそうです。

特に七月の参議院選挙はその結果によっては安倍内閣の退陣、衆議院解散もありえる今後の日本の政局に重大な影響を及ぼす、天下分け目の選挙であると思えます。

一月二十一日に行われた我孫子市長選挙で星野氏が市長に当選しました。この厳しい財政難の中で、市民サービスを低下させずに持続可能な財政運営をいかに構築していくのか？事業の選択と集中、また団塊の世代の多くが定年を迎える今、地域の人材をどう市政に活かしていくのか？今、強いリーダーシップが新市長には求められています。

市議会の改革元年

今年の私の抱負は、

第一に市議会の改革に取り組んでいきたいと思っています。

市民が求める政治、市議会が変化しているように感じています。具体的にはより市民に身近でわかりやすい市議会になることが必要となつていきます。昨年に導入した議案採決表示システムを始め、対面式の議事堂、一日一常任委員会の開催、三月には厳しい我孫子市の財政を鑑み、議員報酬も減額するなど、市民と議会が対話を行う市議会へと脱皮していく、そのような議会の改革に努めてまいります。

第二に、我孫子市の交通ネットワークの充実に向け、常磐線や成田線の増発など交通網整備利便化、駅施設の充実にも努めてまいります。具体的にはTXや、千葉ニュータウンを走る成田高速鉄道などに対抗できるJRの利便性を求めていくこと、常磐線特別快速の我孫子駅・天王台駅への停車、成田線の増発、各駅舎の改善、特に玄関口である我孫子駅の改良に目処をつける一年にしたいと思っております。

第三に、議員として横と縦のつながり、ネットワークをさらに強化し、十一月の市議選に勝利し、今後の方向性を整理する年にしたいと思っております。

「これで良いのか
我孫子市は」

いずれにしても、今、我孫子市が自治体、自分の体を治められる

真の自治体になるには、財政的に自立していく必要があります。歳出の削減と同時に歳入の拡大策も不可欠です。今年にはJRを中心とした千葉DCディストネーションキャンペーンの年でもあります。手賀沼を活かしたまちづくり、観光行政の見直しなど市民の方々の知恵と力を出し合いながら、まちづくりを進めていく、その先頭に立っていく覚悟です。

我孫子の将来を考え、「これで良いのか我孫子市は」を常に考えながら、これからは正々堂々と歩んでまいることお約束し、引き続きのご指導とご支援を心よりお願いして新年の挨拶といたします。

宏



先月、行われた十二月議会は四日から二十五日まで二十二日間の会期で行なわれました。議案は総額四億円の一般会計補正予算案、一般職員・常勤特別職の給与に関する条例改正案、保育園設置条例の変更など市長提出の十四議案と本会議に押しボタン式採決を導入するために議員が提出した規則改正案、監査委員選出議案の全十六議案、その他、請願・陳情など十

九件を慎重に審査いたしました。

正副議長の選任

市議会初日に正副議長選挙を行い、議長に私、印南 宏(52歳・あびこ21)、副議長に関谷利江市議(57歳・市政クラブ)が選任されました。



自治基本条例案は否決

十二月議会の争点は今期で退任する福嶋市長が提出していた自治基本条例が可決されるか否か、が最大の争点となりました。九月議会で提出され、継続審査となっていた自治基本条例は議会特別委員会でも審査が行われ、福嶋市長の政治理念としていた「市長任期は連続三期まで」など、県内初の市長任期を制限する条文が盛り込まれるなど注目されてきました。

しかし、特別委員会では任期制限に対する条例案に反対が続出、市側は同条文を全文削除した修正案を提出しました。その後、質疑は「市民の定義」や「議員定数」

について「市民の意見を聞かなければならぬ」とした点などに意見が集中、「来月に退任する市長は条例案を出すべきではない」など福嶋市長に条例案取り下げを求め意見なども出されるなど活発な論議が行われました。

本会議の採決では自治基本条例案を賛成少数(賛成11:反対16)、その他、一般職給与条例の改正と常勤特別職・教育長の給与条例の改正、二議案も否決(賛成13:反対14)となりました。その他、十三議案については可決され閉会しました。

今月、一月二十四日に任期満了となる福嶋市政、最終の定例市議会は市長不信任の形で閉幕しました。

(なお、給与改正条例が成立しないと来年度予算の編成が不可能として、一月十一日に臨時市議会を開き、両議案は可決されました。)



宏はこう考える。

(十二月議会の発言より)

我孫子駅の抜本的な改修について
(都市建設常任委員会)

我孫子駅は交通バリアフリー法の施行に伴い、平成二十二年を目

途に駅ホームにエレベータを設置する計画が明らかになっていきます。その設置費用は三基で六・六億円、地元負担は三分の一で約二・二億円といわれています。

私はその費用が市の持ち出しで発生するならば、単なるエレベータ工事で終わらせるのではなく、同時に老朽化した我孫子駅の抜本的な改良をしなければ意味がないと意見しました。

我孫子駅の抜本的な改良には、「都市再生交通補助金等」を積極的に活用し、整備を進めることはもちろんですが、我孫子市として「どんな我孫子駅にするのか」、JRが我孫子駅の改良案を策定するときには「こんな我孫子駅にした」と市の考え方を具体的に提案できる推進体制が必要だと迫りました。

具体的には、日立精機跡地の大型マンション開発による利用者が増えている我孫子駅北口西側方面の出入り口の新設、我孫子駅南北の交流道路機能の拡張、駅北口変電所の見直し、我孫子駅南口に昨年八月にオープンしたケヤキプラザへのアクセス利便化など、市民ニーズを反映した新我孫子駅概略図をJRに提言し、JRと一緒に我孫子駅のあるべき姿をまとめ上げなければならぬと十二月議会都市建設常任委員会で強く発言を行いました。

★ あびこ21 会派代表質問骨子 ★

- 1. これからのまちづくり
 - ①政令指定都市の研究
 - ②公共サービス外部委託化における「質の担保」
 - ③市民参加のあり方 市民参加条例の制定
 - ④選挙開票作業の短縮化
 - ⑤ちばディスティネーションキャンペーンの取組
- 2. 教育行政
 - ①小中一貫教育制度の検討
 - ②教育委員辞任について
 - ③ブックスタート
 - ④学校における読書環境の整備
- 3. 暮らしの安全・安心
 - ①生活安全条例
 - ②柏市の中核市移行に伴う保健所問題
 - ③小児救急医療体制の強化
- 4. 交通・道路行政
 - ①成田線の利便化
成田線輸送改善調査／署名活動／駅施設の改善
 - ②道路管理
道路維持修繕箇所選定基準に基づく工事実施状況

成田線輸送改善調査

成田線沿線の十一市町村で構成する「成田線複線化期成会」は、全線の複線化を目指して活動を続けてきました。その結果、平成六年十二月にJR東日本から「成田線輸送改善計画」が提示されました。

その内容は、①我孫子～東我孫子と木下～小林の一部区間の複線化、②東我孫子・小林駅の改良、③変電所の新設・電車車庫の新設、などにより、十分に一本運行可能な路線にする計画でありました。しかし、その後の輸送需要の減少により採算性の見通しが立たない状況となり、この計画は凍結されています。

その後、利便化が進まない今の状況を打破すべく、平成十七年八月から「成田線複線化促進期成会」は現有施設を最大限活用しながら最小の施設改良により、朝通勤帯への増発の可能性について、現在の状況を把握し、増発が可能と思われる方策を検討してまいりました。

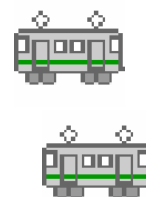
その結果を平成十八年十一月『成田線（我孫子～成田）輸送改善調査』としてまとめました。

- ① 途中駅からの増発
(具体的には安食駅、小林駅)
- ② 複線化用地を活用した引上げ

線(一時停車線)新設による増発(安食駅)

③ 始発駅である成田駅からの増発への留置線(車庫)新設による増発。

今後はこの調査結果を基にJR千葉支社と増発のための協議を進めていく予定です。



○ 宏 雑 感 ○

「心に残る詩」

先日、参加した議員研修会で知った詩(北欧スウェーデンの小学校教科書抜粋)

現代、日本社会にもっとも必要としている「家族」について、考えさせられる詩です。

子ども

ドロシー・ロー・ポルト

批判ばかりされた 子どもは
非難することをおぼえる
殴られて大きくなった 子どもは
力にたよることをおぼえる
笑いものにされた 子どもは
物を言わずにいることをおぼえる
皮肉にさらされた 子どもは
鈍い良心の もちぬしとなる

しかし、激励を受けた 子どもは
自信を おぼえる
寛容にであった 子どもは
忍耐をおぼえる
賞賛をうけた 子どもは
評価することをおぼえる
フェアプレイを経験した子どもは
公正をおぼえる

友情を知る 子どもは
親切をおぼえる
安心を経験した 子どもは
信頼をおぼえる

可愛がられ 抱きしめられた
子どもは
世界中の愛情を
感じとることを おぼえる

*私たちはいろいろなグループに
属しています。
もともと大事なグループは家族で
す。

「家族は社会全体がその上に成り
立っている基礎である。」

平和台雑感

平和台の皆さん方はお正月をど
のように過ごされましたか？私は
毎年恒例、大晦日から元旦にかけ
て除夜の鐘を聞きながら、地元布
佐竹内神社へ夫婦で初詣。参道へ
向かう途中、見上げた夜空の星が

美しく輝いていたのが印象的でし
た。迎えた二〇〇七年、今年も健
康で元気に仕事が出来よう心を
込めてお祈りをした。◆私のお正
月、楽しみの一つに二日三日に
開催される箱根駅伝がある。「箱根
駅伝とは、もはや陸上競技を超え
た神事なのである」と早大競走部
OBで駅伝ランナーであった映画
監督・篠田正浩氏の言葉である。
母校のタスキに名誉をかけて、ひ
たむきに走る若者の姿に、毎回多
くの感動をもたらしている。何が起
こるかわからない、筋書きのない
ドラマに胸がときめく。今年も五
区、史上最大のタイム差を逆転す
る四人抜きを行なった順大、今井
選手の脅威の山登りに感動。地元、
中央学院大学も大いに健闘した。
今年テレビ画面に釘付けになる場
面があった。新木に住んでいる友
人の息子さんの姿を見た。彼は県
立柏高校を卒業、一般試験で法大
に進学、自ら進んで入部した陸上
部で、箱根駅伝に出場権を得てい
たのだ。全国から選りすぐられた
推薦選手がたくさんいる中で、十
区を任せられ懸命な走りを行って
いた。シード権こそかなわなかった
が、大学四年最後の年、立派な走
りを見せてくれた。テレビで見た
彼の姿に思わず熱い拍手を贈った。
◆夕張メロンで有名な夕張市、財
政再建団体に転落することになっ
た。財政再建団体とは地方財政再
建促進特別阻止法に基づき、国の
監視下で財政赤字の解消を目指す

自治体のことである。実質赤字が
一定額(市町村は標準財政規模の
二十%)を超えると指定対象とな
る。夕張市の実質赤字は標準財政
規模の八倍超の三百六十億円。「放
漫経営」の結果である。我が街、
我孫子をみると借金は少ない方だ
が、財産も少ない。工業団地が一
箇所もない「住宅都市」。個人市民
税に頼る体質。今後団塊の世代の
大量退職なので先行き厳しい財政
状況がみえる。平成九年度を境に
市税収入は毎年、減少傾向にある。
この五年間の推移は平成十三年度
百八十億円、十四年度百七十九億
円、十五年度百六十九億円、平成
十六年度百六十八億円、平成十七
年度百六十八億円。「住宅都市」の
選択は暮らしやすさという利点を
生むが反対に商工業、経済の活性
化になじまない。行財政改革と歳
入増への取り組みなど新市長のリ
ーダーシップ、市議会の責任は重
い。◆冬の寒さに震えるこの時期
になると私は必ず思い出すことが
ある。私は三十五年前、故郷をあ
とに、大学に進学するために新聞
奨学生になった。新聞配達をしな
がら奨学金をもらい学校に通う制
度のことである。配達を初めて行
なった頃、寒くて震えながら新聞
配達をした学生時代を思い出す。
新聞店の二階に住み込み、朝は三
時半に起床、約二時間半かけて配
達。大学の授業が終わると、すぐ
に新聞店に戻って夕刊配達へ。そ
の後、店でチラシ挿入の作業、集

金や拡販の為の準備等忙しい毎日
だった。新聞配達と学校の両立、
あまりの厳しさに、夜、布団に入
ると自然に涙がこぼれ、何度も大
学を辞めようかと思いつつ日々が
続いた。その度に中学、高校時代
の友人からの手紙や電話で励まし
られたことを昨日の日のように思
い出す。また、ある日、寂しさの
あまり実家に電話をすると、父が
電話に出て「おい、宏。お母さん
は雨が降る度に宏はズブ濡れにな
って配達が大変だろうと心配して
泣いているぞ」との返事、うれし
かった。電話口で涙があふれた。
よし、最後までやり抜こう。こう
自分に言い聞かせた新聞奨学生時
代。そんな生活があったから今の
私があると思う。これが私の原点
である。

宏

印南 宏後援会

〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)
Tel 7184-2860

印南 宏 自宅

布佐平和台 7-1-18
Tel 7189-1598
e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp